

技術トピック

「空気断熱工法」が優秀技術賞を受賞 今年4月からFC本格展開

(財)中小企業異業種交流財団などが主催する全国異業種交流・連携フェアが2月26・27日に開かれ、このなかで北辰住宅技研(株)(群馬県高崎市・飯塚敏夫社長 ■027・364・1141)が開発した「建築物の空気断熱工法」が優秀技術賞を受賞した。

「空気断熱工法」は断熱材を一切使わず、建築躯体内に3つの空気層をつくることで、冬の建物内の保温断熱と夏の外気冷却を実現する。すでに空気断熱工法で外壁と屋根を組み合わせ省エネ効果が実証されている。

壁構造の場合、外壁材、木繊維断熱ボード、構造用合板、内壁(ラスボード+漆喰・桐板など)の4枚仕切板構造。このとき壁内にできる3つの空気層が断熱性を発揮する。(財)建材試験センターの試験では、この仕様で熱貫流率0.81W/(m²・K)と認定

された。

3層のうち最外皮の可変空気層を、壁と屋根で一体化させ、高速で移動させることで、「夏期の高温外気でもエアコンなしで我慢できる暑さ」の住環境を実現している。

またパネルを適切に施工することで、気密シートなしでも隙間相当面積3.5~4.5cm²/m²が可能となる。

同社では、今回受賞した「空気断熱工法」と自然素材の内装材を組み合わせた「森林浴のできる家」の全国フランチャイズ展開を今年4月から本格始動する計画。また今後は、海外の冷房を必要とする製造工場に的を絞り「CO₂削減権取得事業」も視野に入れているという。飯塚社長は「誰もが平等に恩

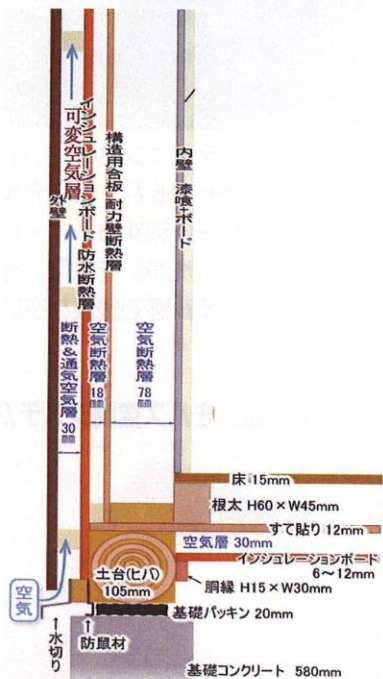


表彰を受ける北辰住宅技研(株)の飯塚敏夫社長

北辰住宅技研株式会社
群馬県高崎市
■027-364-1141
<http://www.hokushin-f.co.jp>

恵を受けられる空気という自然素材を活用して、保温と冷却の相反する能力を発揮できる革新的な工法によって、これまで多用されてきた化学物質を極力排除できる自然を活かした、住む人と環境に優しい住宅を広く知ってもらおうきっかけになれば」と話している。

断面図



空気層で断熱する壁の構造。建材試験センターで試験したところ、熱貫流率は0.81W/m²・Kだった